

砂防ふるくしま

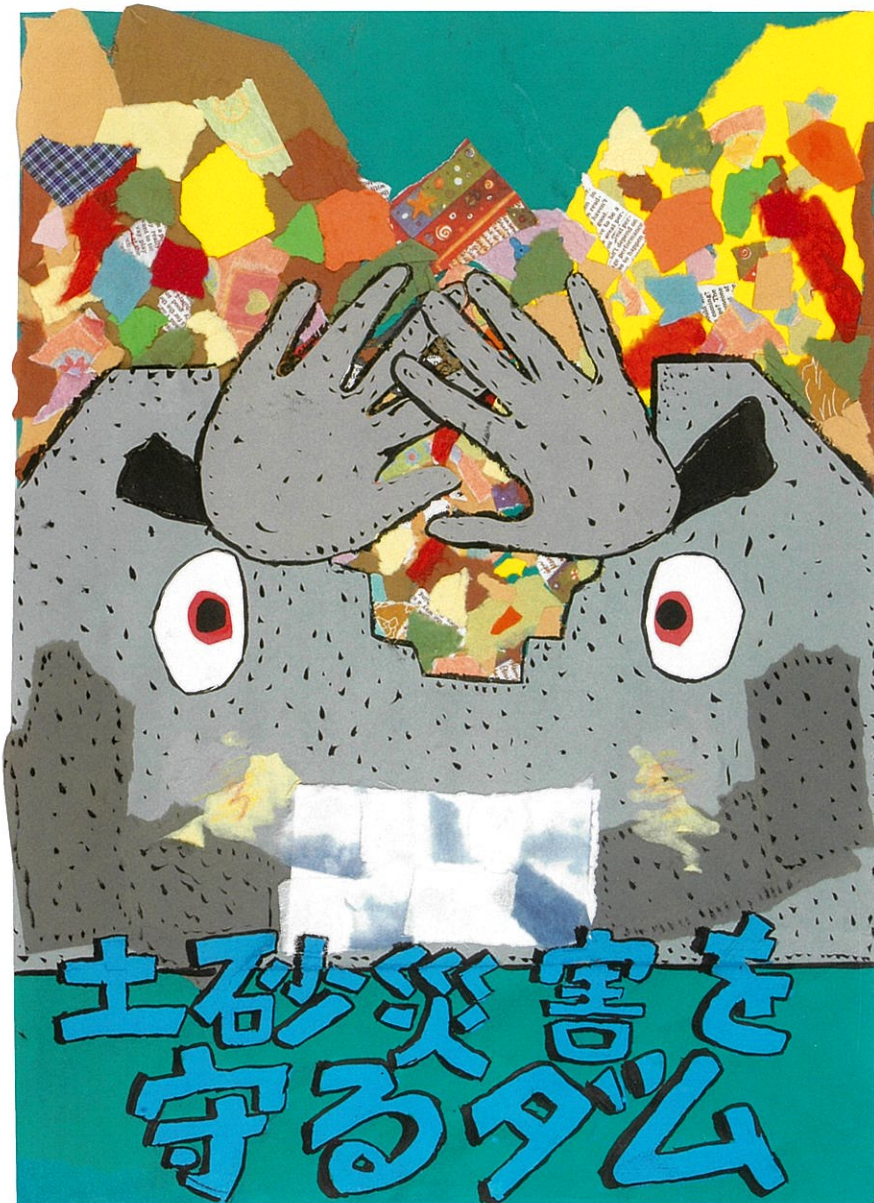
第16号

福島県砂防協会機関誌

会津美里町立藤川小学校6年

根本

まさみさん



国土交通事務次官賞(ポスター部門)

平成18年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール

CONTENTS

福島県砂防協会長あいさつ	2
平成18年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品	2
平成18年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品 絵画部門	3
平成18年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品 ポスター部門	4
平成18年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品 作文部門	5
土砂災害防止法に関するアンケート調査の結果について	9
「ふるさと安全たんけんスクール」の取り組み	10
編集後記	10

みんなで防ごう土砂災害
土砂災害防止月間
6/1→30
 かけ崩れ防災週間 6/1▶7

福島県砂防協会会長あいさつ



福島県砂防協会会長
只見町長 小沼 昇

会員の皆様には、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から本協会の運営にあたり御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

昨年の冬は全国的な豪雪により各地で雪崩等の被害が発生しましたが、今年の冬は一転して雪が少ない状況になっております。しかし一方で平成18年は梅雨時期及び秋雨時期の豪雨等により、中通り及び浜通り方面でがけ崩れや地すべりの被害が多数発生し、過去5年で最大の発生件数、過去10年でも平成10年に次いで2番目に多い年となりました。

さらに本年2月7日には、金山町大字小栗山字四十苧地内で発生した土砂災害においては、裏山の異常な音に気づいた住民の方が避難したため人的被害はありませんでしたが、全壊2戸の家屋被害があり、また周

辺12世帯に対しては避難指示が出されるなど、大きな被害となりました。

被害に遭われた住民の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、今後も引き続き土砂災害から地域住民の生命・財産を守るため、砂防関係事業の促進と住民の自主防災意識の啓発に努めてまいりたいと考えております。

さて、本協会の重要な事業活動として土砂災害防止に関する啓発活動を実施しておりますが、この一環として国土交通省と県が毎年6月に実施している「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクールの作品募集で小・中学生から多くの作品が寄せられました。厳正な審査の結果、根本まさみさん（会津美里町立藤川小学校6年）の国土交通事務次官賞をはじめ、多くの作品が受賞されました。

本年度の作品も、土砂災害から身を守るために日頃からの備えと注意すべき心構えについて、広く啓発するものとなり受賞された皆様に対し心からお礼申し上げます。

本協会といたしましても、応募された作品と同様に、啓発活動に務めてまいりたいと考えておりますので、引き続き会員の皆様と関係機関の格段の御協力をお願い申し上げます。あいさつといたします。

平成18年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品

国土交通省と福島県では、土石流・地すべり・がけ崩れ等の土砂災害から、かけがえのない生命と財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関して地域の皆様の御理解と御協力をいただくために様々な行事を行っております。

この行事の一環として、明日を担う小・中学生を対象に「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文

コンクールが行われました。本県においては、多くの応募の中から17作品が福島県砂防協会賞に選ばれ、そのうち10作品が中央審査会に推薦されました。審査の結果、根本まさみさん（会津美里町立藤川小学校6年）（ポスター部門）の国土交通事務次官賞のほか、5名の方が砂防部長賞に選ばれました。ここに受賞された方の作品を御紹介します。

平成18年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール作品応募状況等

区分	福島県内応募数			全国応募数		
	うち福島県砂防協会会長賞	うち国土交通事務次官賞	うち砂防部長賞	うち優秀賞受賞者数（※1）		
絵画	小学生	14	2		900	大臣賞＝1、次官賞＝3、部長賞＝11
	中学生	8	1	1	409	大臣賞＝1、次官賞＝3、部長賞＝11
ポスター	小学生	26	2	1	1,446	大臣賞＝1、次官賞＝3、部長賞＝12
	中学生	70	4	1	1,657	大臣賞＝1、次官賞＝3、部長賞＝11
作文	小学生	7	2	1	383	大臣賞＝1、次官賞＝3、部長賞＝10
	中学生	80	6	2	664	大臣賞＝1、次官賞＝3、部長賞＝10
計	小学生	47	6	1	2,729	大臣賞＝3、次官賞＝9、部長賞＝33
	中学生	158	11	4	2,730	大臣賞＝3、次官賞＝9、部長賞＝32
総計		205	17	1	5,459	大臣賞＝6、次官賞＝18、部長賞＝65

（※1）大臣賞は国土交通大臣賞、次官賞は国土交通事務次官賞、部長賞は砂防部長賞

平成18年度「土砂災害防止」に関する
絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品(絵画部門)



賞 砂防部長賞

棚倉町立棚倉中学校(2年)
坂本 文音さん



賞 福島県砂防協会長賞
猪苗代町立緑小学校(3年)
安部 哲也さん

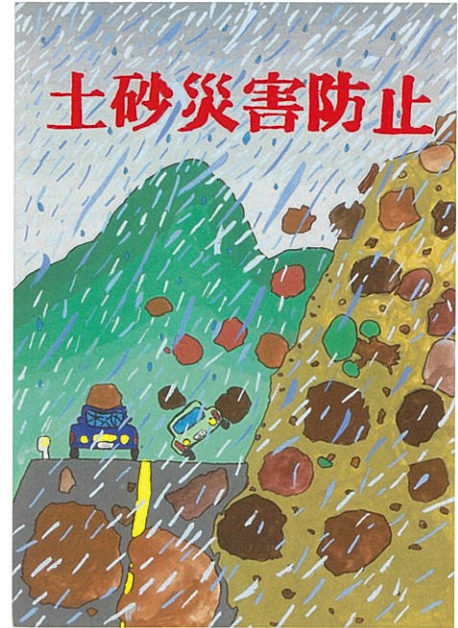


賞 福島県砂防協会長賞
猪苗代町立緑小学校(3年)
安部 一壽也さん

平成18年度「土砂災害防止」に関する
 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品(ポスター部門)



賞 国土交通事務次官賞
 会津美里町立藤川小学校(6年)
 根本 まさみさん

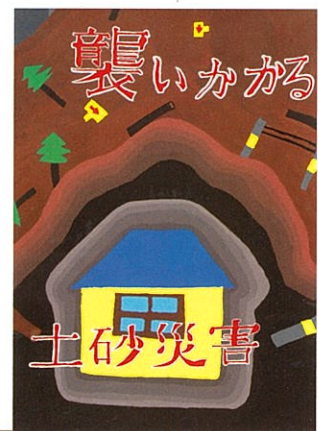


賞 砂防部長賞
 相馬市立向陽中学校(2年)
 高玉 祥子さん



賞 福島県砂防協会会長賞
 会津美里町立藤川小学校(6年)
 根本 暉大さん

賞 福島県砂防協会会長賞
 石川町立石川中学校(2年)
 佐々木 麻里さん



賞 福島県砂防協会会長賞
 石川町立石川中学校(3年)
 酒井 瑞穂さん

賞 福島県砂防協会会長賞
 石川町立石川中学校(3年)
 大沼 郁美さん



平成18年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品(作文部門)

賞 砂防部長賞

土砂災害について 西郷村立小田倉小学校(5年) 森 わか奈さん

今年、日本列島では、全国各地で大雨による土砂くずれなどが相次、たくさんの人の命がうばわれました。それで、土砂災害について考えてみることにしました。

土砂くずれは、とってもこわいです。土砂くずれから土石流が発生し、土石流が人をのみこんだり、人が生きうめになったりという事件がありました。どれも、土砂くずれがもとになったものばかりです。

ひさい者の中には、命は助かったものの、家が流されてしまい、住む場所がなくなってしまう人がたくさんいました。そのため、たくさんの方がひなん生活をしいられています。

災害の時におそれられているのは食料不足です。せっかくひなんして命があっても、食料がなければもともともありません。そのため、災害の時は、食べ物は、とってもきちょうになるのです。だから食べ物を災害の時のためにきちんと備えておくのが大切になります。国や県でも準備しているとのことですが、一軒一軒備えておけばなお安心です。

今回のような時に、ひ害を減らすためにはどうしたら良いのでしょうか。また、どのような工夫がほどこされているのでしょうか。

ひ害を減らすために、もっとも、効果的といわれているのは、土砂く

ずれがおきそうなきけんな場所には、あまり近づかないことだそうです。とくに、山の近くなどは、とってもきけんなので大雨のときなどは、なるべくはなれた場所にいるのが一番です。もしも、家の近くで土砂くずれがおきた場合は、すぐにその場所からはなれて、消防署の人たちの救助を待ちます。

大雨による、土砂災害を減らすために、国や県では、さまざまな工夫をほどこしています。例えば、山がくずれてきそうな場所では、山がくずれてこないようにコンクリートで、山のしゃ面を固めている場所があります。土砂くずれによるひ害を減らすために私は、少しでもくずれてきそうな所全部に、この方法を使うと、土砂くずれによる、ひ害が減ると思いました。その他に、大雨などの時には、土砂くずれの注意報やけい報を出します。もしも土砂くずれが実際におこった場合は、ひなんするようによびかけるなどの工夫をしています。

今回、大雨などによる、ひ害にあった人たちのために、私たちにも何かできることはないのでしょうか。

この間、あるスーパーに買い物に行った時に、ほ金の箱がありました。その内容は、大雨による災害で苦しんでいる人たちへのほ金でした。私は、今、私たちにできるのは、一人でも多くの方がほ金活動に協力することだと思いました。災害によって生活に困っている人たちに協力することは、かん単そうに見えるけれども、実際にやるのはとてもむずかしく大変なことです。

私は、土砂災害やその他の災害でも、みんなで協力し助けあっていける日本にしたいです。このようなことが日本以外の他の国にも広がり、世界中の人が協力し合い、地球を守ってあげたいと思います。

賞 砂防部長賞

私が体験した土砂くずれ いわき市立湯本第一中学校(2年) 岩尾 玲子さん

一九九七年五月二五日、私は生れて初めて土砂くずれというものを体験しました。五才の時でした。私の家は山が目の前にあるので、いつも山の下の遊んでいました。山の上には、とても大きな貯水タンクがあり、いつも家を見下ろしている感じがした。

その日、私は姉達と一緒に山の下の手で遊んでいました。前の日にすごい大雨が降ったので、小川などが増水していました。そこで私達は水遊びをしていたのです。水がたくさんあふれていて、子供にとってはとても楽しい遊び場でした。近所の子供達も一緒に遊んでいました。

その時、いきなり山の上がくずれ始めたのです。母に、「もうお昼だから家に入りなさい。」

と、言われて私達は片付けを始めました。最初は、くずれ始めていたのが私達には分かりませんでした。母が大声で姉の名前を呼んだ時に初めて、山の上のタンクが傾いていることに気づきました。私達はびっくりして、すぐに家の中へ避難しました。

最初は、タンクが傾いているだけだったので、木などが下の方に倒れてくるだけでした。でも、だんだんとタンクが下向きに倒れてしまい、水が流れ始めたのです。山の上には、大きな木がたくさん生えていたので、たくさんのお木が水と一緒に流されて来ました。私達は、家の中からその様子を見ていました。水と土、それから木の混ざった土砂は勢いよく流れて来ます。あの光景を一生忘れません。本当にすごいものでした。

山の上から流れてきた土砂が今度は私の家の壁をつき破って家の中へ入ってきました。私の家の中に、大きな木が窓ガラスを割って入ってきました。外は土砂が流れています。私の家は坂の一番上にあるので、家のすぐ横を土砂が流れていきます。母は消防署かどこかに電話していました。

私達は、祖父と祖母が坂の下までむかえに来てくれたので、すぐ祖父の車で祖父の家に避難しました。坂を下りて来て、こんなに土砂が流れ

ていたのかとびっくりしました。私達は家の中に逃げたので、土砂が流れ出た量など分かりませんでした。下におりて来て、その量にびっくりしました。上から流れて来た土砂が坂の下でたまっていて、洪水のようになっていました。テレビ局なども来ていて、すごい騒ぎでした。こういう光景は、いつもテレビの中だけだったので、今、私の目の前で起きているということが信じられませんでした。私達の家や地域は、どうなるのだろうか、とてもとても不安でしかたがありませんでした。祖父のうちへ行く道路は大渋滞、大騒ぎでした。

私達は、祖父の家に避難しましたが他の桜ヶ丘の人達や被害にあった人達は、下湯長谷の「しらゆり荘」に避難しました。しらゆり荘は、いわき市の避難場所になっていたのです。それで、みんなそこに泊まりました。しらゆり荘に避難していた人達は私達もふくめ、七月の初め頃まで、約二ヶ月避難生活をおくりました。

今回の土砂くずれのもともとの原因は、前の日の大雨のせいだと言われています。大雨が降ったせいで、地面の土などがゆるみ、タンクが傾き始め、山がくずれたのです。このことは、テレビや新聞にものっていて、すごい騒ぎになりました。

私が住んでいた家は、市が費用を出し、修復してくれました。とくに、私の家は被害が大きかったので、他の家より修復する時間が長かったです。桜ヶ丘地区はもとどおりにもどりましたが、あの貯水タンクはなくなりました。土砂が流れた部分の林はなくなりましたが、今少しずつ新しい小さな木が生えはじめています。この災害が起きた時私はまだ幼稚園に入ったばかりでとても怖くて、一生忘れることのできない体験をしました。この体験を通して、本当に土砂災害はおそろしいものだと感じました。

私は、土砂災害の防止策として二つのことを考えました。一つは、土砂災害が起こりそうな危険な場所を調べて、地図に書きこみ、それを配付し、近づかないよう呼びかけることです。二つめは、各地区で行われているような、土砂災害防止のための植樹などがあれば、すすんで参加することです。

最近でも、九州地方の方に台風が接近していて、あちこちで土砂くずれが起き、気の毒だなど思いながらニュースを見えています。地域の人達一人一人が、土砂災害に危機感を持ち、被害が最小限度におさえられるよう、心がけていくことを望みます。

平成18年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品(作文部門)

賞

砂防部長賞

土砂災害を防止するために
須賀川市立長沼中学校(3年)
五十嵐 敬盛さん

「現在、過去数年で、もっとも土砂くずれのおきやすい状態となっていますので、ご注意ください。」今年、この言葉をニュースで何回聞いたことだろうか。僕だけではないだろう、最近土砂災害が増えていると感じるのは。

僕は祖母から、僕達が住んでいる所で、土砂災害があったことを聞いた。僕達が住んでいる所は、まわりが山に囲まれていて、家のすぐうらに山が迫っている住宅が少なくない。そのため土砂災害が起りやすく、被害も大きくなりやすい場所だと思う。最近では大きなものは起きていないが、十年ぐらい前に大雨が降り川が氾濫し、土砂災害の被害が出たそうだ。大雨が降り続き、その結果山のがけが崩れたり、その崩れた土や泥が家の近くまで流されてきたりという状況だったそうだ。流されてきた土や泥はとても重く片づけるのがとても大変だったそうだ。また、それが家の中まで入ってきてしまった家では、家具が使い物にならなくなってしまったという。それに大雨が降ったことにより川が増水し、氾濫したことによる床下浸水や、田、畑に大量の水がたまり農作物が収穫できないといったことが起こったそうだ。さらに、この時の川の氾濫はものすごかったため、橋が流されたり、道路が完全に水につかってしまった地域もあった。そのため多くの人々が避難したという。もちろん僕達の家族も避難した。僕は小さかったので何も覚えていないが、祖母や両親は「本当にこわく、恐ろしかったし、こんなことは二度と起きないでほしい。」と話していた。僕もこんなことは二度と起きてほしくない。最近では川が整備され、僕達が住む所ではこのような恐ろしいことは起こっていない。

しかし日本全体をみると、昔も今も土砂災害の被害は大きい。そして今もそのような恐怖は年々増加しているのである。そこで僕は、なぜ最近こんなにも土砂災害が増えているのか、その原因は何なのだろうか、自分なりに考えてみることにした。

賞

福島県砂防協会賞

梅雨の豪雨から考えたこと
二本松市立油井小学校(3年)
佐々木 徹志さん

今年の七月は日本中でたくさんの雨が降り、またたくさんの人が被害にあいました。僕はテレビを見ながら「また今年もかあ・・・。」と悲しい気持ちでいっぱいでした。

長野や九州での被害を見ていると、ハザードマップで危険だと分かっている場所で土砂災害が起きていました。だから少しは予想できる災害だったのだと思います。被害にあった方々は本当にお気の毒だと思います。だけど、一人一人が災害に対して、「うちは大丈夫だ」と考えずに、もっと意識していないといけないと思いました。ハザードマップも、家の中の目立つ場所に貼っておくのがいいと思います。そして少しでも強

一つ目は最近問題になっている異常気象が深く関係しているのではないだろうかということである。今年もあったように異常な集中豪雨が、土砂災害を引き起こしているからだ。今年は、九州地方で、二、三日で年間降水量に匹敵するという集中豪雨にみまわれた地域もあったそうだ。僕は、この大雨が原因で土砂くずれが起きて、多くの人々が犠牲になったことをニュースで耳にした。最近このような異常気象が増えているのは、地球温暖化が関係している。気温が上がることにより、勢力の強い雨雲を頻繁に発生させることになるからだ。

二つ目は、伐採することによる山の本々の減少が、土砂災害を引き起こす原因となっているということである。山の本の減少によって、山の地盤が弱くなっているからである。

では、どうすれば土砂災害を防ぐことができるだろうか。僕は、現段階で簡単に私達が土砂災害を防ぐことは難しいと思う。しかし土砂災害から身を守ることは十分にできると思う。土砂災害から身を守るということについて調べて見た。

その結果、まず第一に早めの避難がとても重要で、大切だとわかった。それでは、どうすれば土砂災害が起きるのを素早く察知し、避難することができるのだろうか。そこで大切なのは、土砂災害の前兆現象である。

土砂災害の種類は、大きく分けて三つある。その三つの種類とは、がけ崩れ、土石流、地すべりである。そして、それぞれに異なった前兆現象がある。がけ崩れでは、地鳴りや斜面のふくらみ、小石が頻繁に落下することなどである。また土石流では、流水の異常な濁りや流木が発生し、土臭いにおいがすることなどである。地すべりでは、樹木の傾きや亀裂、段差の発生、地鳴り、山鳴りなどがそれにあたる。だからこのような前兆現象に注意を払うことで早めの避難をすることができ、自分の身を守ることができるのである。

次に日頃の備えが大切であることが分かった。どのような備えが大切かということ大きく分けて五つある。それは避難の道順を決めておくこと、雨に注意すること、情報に気を配ること、危険な箇所を調べておくこと、そして最後に避難の準備を常にしておくことである。この五つの備えを日ごろから気をつけていれば、必ず土砂災害から命を守ることができると思う。

私達の大切ないのちとくらしを守るためにひとりひとりが安全への意識を高め、備えていきたい。

雨が降ったら、「どこに逃げようか」と考える、そして早めに避難することが大切なのだと思います。

僕は災害が起きてからあわてるよりも、起きる前の防止に力を入れることの方が大切だと思います。土が流れたり、崩れ落ちたりしやすい場所を、コンクリートで固めたりすることも大切です。だけど土砂災害が起き易くなってしまったのは、僕達がたくさん山の本を切り出してしまったからなのではないかと思います。

そのためには本を植えることが大切です。そうすることで土に対する根つきをよくして、土の流出を防ぐことができると思います。そして、今、山にある本を大切に使うことも大切だと思います。そのためには木のむだづかいをなくすように、僕達一人一人が心がけることが何よりも大切だと思います。

毎年くり返される土砂災害の様子を見て、みんなが他人事だと思わないこと、そして一人の力は小さくても、みんなの気持ちが集まれば土砂災害は防げるものだという事を考えてほしいと思います。

平成18年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品(作文部門)

賞 福島県砂防協会会長賞

土砂災害について 棚倉町立棚倉中学校(3年) 覚方 咲貴さん

今年も集中豪雨により、土砂災害がおきました。しかもその土砂災害で、死亡者が多数でたのです。その他にも、家が全壊するなどの大きな被害がでました。しかし、この土砂災害は毎年、各地でおこっているような気がします。土砂災害をおこしにくくする予防策などは、ないのでしょくか。そもそも、土砂災害とは、どのようなものなのでしょうか。

土砂災害とは、大雨や地震によって山肌やがけが崩れたり、土砂や石混じりの水が谷や川から流れ出たり、火山の噴火などによって、火砕流などが流れ出すことによって人命などが脅かされる自然災害です。さらに、土石流災害、がけ崩れ災害、地すべり災害、火山災害など種類があります。また、予防策に砂防があります。砂防は、山の斜面が崩れるのを防止したり、土砂が下流へ流れ出すのを止めたり、土砂の量を調節する役目があります。そして、地域によって

は、土砂災害がおきる危険箇所を示した地図を配布するところもあるそうです。私は、ここまで土砂災害について調べてみて、自分あまり土砂災害についての知識がなかったと気づきました。私だけではなく、土砂災害についてあまり知らない人はたくさんいます。だから、土砂災害はおきやすくするんじゃないかと思いません。

それから、私は理科の授業で木がなくなると、土砂災害がおきやすくなると聞いたことがあります。木がないために、地面がもろくなり、土砂が流れやすく崩れやすくなるのです。年々森林が伐採されていく中で、土砂災害をおこしにくくしようとしても無駄なことではないかと、私は思いました。

土砂災害は、自然災害ではあるが、私たち人の手も加えられているのではないでしょくか。私たちは自然と共存しています。それなのに、人間がその関係を乱すことをしたら、共存というバランスは崩れてしまいます。

私は、土砂災害を少しでも減らしていくには、一人一人が自然災害について知ってもらうことと、自然との共存について考えてもらうことが必要だと思えます。そして、土砂災害が少しでも減ればいいと思いました。

賞 福島県砂防協会会長賞

土砂災害を防止する いわき市立平第二中学校(2年) 舘 知範さん

僕が土砂災害について興味を持った理由は、学習塾へ行く途中の坂にある斜面が崩れているのを見たためでした。土砂崩れのしくみとそれを防ぐ方法を僕は調べました。

最初に、がけ崩れのしくみを説明します。がけ崩れとは急な斜面が崩れる土砂災害のことです。大雨のときに、なんの前ぶれもなく起こることが多いので、家が壊れて、逃げおくれで亡くなる人が多い災害です。がけ崩れは雨によって地面がもろくなって起こることが多いため、斜面をのり枠と呼ばれるコンクリートの枠で押さえて斜面を強くしたり、よう壁と呼ばれるコンクリートの壁で崩れてきた土砂から家を守るという方法でがけ崩れを防ぎます。また、がけ崩れが起こる前は小石がパラパラ落ちてきたり、斜面から水が湧き出るといふ現象が見られるので、このような現象を見たら、すぐに避難場所に行った方がよいと思えます。

次に、土石流の被害について説明したいと思えます。

土石流は、山から崩れてきた土や岩石が水と一緒にものすごいスピードで流れ落ちてくるという土砂災害です。土や岩石が水と混じり合って大きなかたまりになって、谷をけずりながらどんどん大きくなって流れ落ちてきます。大きくなり続けていく土石流は、太い木も根こそぎ倒して一緒に流していきます。最後には町にたどり着

いて、田畑を襲い、道路や家を次々と破壊していきます。

このように、とても恐ろしい土石流も防ぐ方法があります。砂防えん堤と呼ばれる壁を上流部に設置し、規模が小さいうちに受け止めてしまえば被害は少なくなります。

これらの被害はすべて雨が原因で起こります。しかし、森林があると雨は地面から流れ出ずにためておくことができるのです。森林がなくなると、このズボンジなくなってしまうので土砂災害が起こりやすくなってしまいます。

森林は、クッションの役目もはたして、土砂災害を防いでくれます。雨が降っても森林があれば、雨は枝や木の葉に当たるので、直接地面に雨が当たることはありません。地面に当たったとしても、地面にある落ち葉が雨粒を受け止めてくれるのであまり土が流れ出ないですみます。そして、木の根っこが土や砂をしっかりとつかんでいるので、土砂くずれを防いでくれるのです。森林がある場合と何もない地面の場合では、雨が降った時に流れ出る土の量が違うのです。

このように、森林と土砂災害が密接に関わっていることがわかりました。今、森林の伐採が問題になっていますが、それでは土砂災害が増え続けてしまうのではないでしょくか。

土砂災害を減らすためにも、過度の森林伐採はやめてほしいと心から願っています。

平成18年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品(作文部門)

賞

福島県砂防協会会長賞

土砂災害について

棚倉町立棚倉中学校(1年)

高橋 則昭さん

僕の家のすぐ後ろには山があり、僕達はたくさんの自然の中で生活しています。山や川や風などは僕達にとってとても大事な自然の一部です。僕達は自然があるから生きることができるので、僕は自然に感謝しています。

しかし、土砂災害はとても怖いもので、梅雨の時期や台風の時期などの雨が降る時や地震が起きた時などに、がけ崩れや土石流や地すべりなどの土砂災害が発生し、多くの人命や多くの財産が一瞬のうちになくなってしまいます。

僕は、土砂災害について詳しく調べてみました。そしたら、日本は台風や長雨、地震など自然災害の多い国だと分かりました。僕は、なぜ日本では土砂災害が多いか気になったので、さらに調べてみました。調べて分かったことが三つあります。一つ目は、日本は山が多くて、その山もろくて崩れやすい岩や土でできているという事。

二つ目は、日本では梅雨や台風などの時に、一度にたくさんの雨が降り世界の国々の平均の二倍くらいの雨が降るという事。

三つ目は、日本には流れの急な川が多く、大雨の時、一気に流れるから洪水になりやすいという事。この3つが主に災害が多い原因だと分かりました。

そして、土砂災害についてどのような対策をしているのか、調べてみました。土石流対策や風倒木対策など他にも対策方法がありました。土石流対策とは、土石流を受け止め、建て物や人々を保全する対策で、風倒木対策は、流出する風倒木を効果的にくい止めるスリットダムを設置するなどして、下流の集落の安全を守る対策だと分かりました。

また、斜面の有効活用として、がけ崩れ対策や地すべり対策により生れた土地を、公園などの砂場として使用している事が分かりました。

僕は、改めて土砂災害について考え、今まで知らなかった事を知りました。そして、初めて分かった事があります。それは、雨がたくさん降っている時に、山の斜面から雨があまり流れてこない時は注意した方がいいと知りました。

それと、僕が思う土砂災害対策として、お金がかかるけれど、山の斜面にコンクリートをつけて、土砂が流れないようにすれば、災害が少し減るのではないかと思います。

自然災害は、いつ来るのか分からないから、日頃から、自然災害への対策をしておく必要がとても大事だと思います。

賞

福島県砂防協会会長賞

御幸山の土砂災害

いわき市立湯本第一中学校(1年)

志賀 なつみさん

六月十六日、学校から帰ると、祖母と母が長ぐつをはき、大汗をかい土のうを運んでいた。土のうを運ぶさきを見ると、家の脇と裏の両側の山がブルーシートでおおわれていたので、とてもびっくりした。母にどうしたのかと尋ねたところ、私が学校に行っている間に、家の裏の両側の山が崩れたという。

私の家は湯本駅そばの御幸山公園西側に隣接していて、御幸山とは目と鼻の先ほどの距離だ。今回崩れたのは、その御幸山だった。

午前九時頃、大きな音と共に七回程土砂崩れが起き、びっくりした祖母は市役所に電話したそうだ。そして、駆け付けて来てくれた市役所の人や近所の人達が、土のうを作ったり、土砂を取り除いたり、土砂が流れないように土のうを積んだりしていた。

裏山までの道は、車が入れないほどせまく、市道にも面していないため、市には対応してもらえず、私達だけで作業しなければならなかった。土砂は両側の山を合わせて、二トントラックで四台分もあった。幸い市道に面している分は市で処理してくれたが、私道の方の土砂はやはり市では処理してもらえなかった。しかし、土砂は、祖母と母と私の三人だけでは到底運び出せる量ではなかった。祖母は日中一人で運んだり、母が仕事から帰った後や休日に少しずつ運び出しはしたものの、土砂の山は大きなままであった。

そこで東京に住んでいる叔父が手伝ってくれることになった。近所の人と二人がかりで二日間作業し、一輪車で百回以上もの土砂を運んで、やっと土砂が片づいた。

幸い私の家に大きな被害は無かったが、今年は全国各地で大きな被害が出た。

梅雨まっただ中の七月中旬、長野県では、十人が死亡し、七人の行方不明者が出る被害が発生した。この災害では、約七千人に避難指示が出

され、近くの学校や公民館などに避難した。この避難生活は長い人で一週間以上も続いた。

この災害は、長梅雨による地盤のゆるみに加え、三日以上続いた記録的な大雨により、各地で土石流や鉄砲水が発生したことによって起きた災害である。また、救助に向かった消防団員が土石流にまきこまれるなどの二次災害もあった。

災害で自宅が被害を受けただけでも大変なのに、長い避難生活が続き、ストレスがたまって体調を崩す人も多く出て、大変だろうと思った。

今度は七月下旬、鹿児島県では四人が死亡し、一人の行方不明者が出る被害が発生した。同県の今年に入ってからの風水害の死者、行方不明者は二十八人にのぼっている。さらに住宅十二棟が全壊、二千百棟が浸水する被害も出た。

私の家の裏山が崩れる被害が出た十六日は、梅雨前線の影響で、福島県の太平洋側である浜通りを中心に大雨に見舞われた。

いわき市の平田城跡の市道では、道路脇の法面が崩落し、法面下の駐車場にあった乗用車二台の後部が破損した。

今年の梅雨中の風水害による死者、不明者の多くが、土砂崩れをはじめ、土砂災害が原因になっているそうだ。突然おそう土砂災害は、河川の氾濫以上に予測が難しく、今年のような長雨で地盤がゆるむと被害が大きくなってしまふ。国や県では、台風による豪雨や河川の氾濫に対する災害対策を進めているが、がけ崩れ、土砂崩れ、土石流、地滑りといった土砂災害の予防対策はおこなわれているようである。その理由として、集中豪雨が増加してきていること、森林伐採などによる地盤への影響、危険な場所への無謀な宅地開発、高齢化、過疎化による自主防災組織の崩壊などが指摘されているそうだ。

私は、今回の土砂災害を体験して、新聞やインターネットで調べてみた。その結果分かったことは、自分で日頃から出来ることは、きちんとやるべきであるということである。例えば、雨量が多くないか、近くの山の様子に異常が無いか調べる。それから、もしもの時の避難ルートや避難場所の確認を普段からしておく事も大事だと思う。さらに、万が一の時に祖母や母を手助けできるよう、体力や精神力をきたえておくことも大切なことだと思った。

土砂災害防止法に関するアンケート調査の結果について

平成18年7月に全国治水砂防協会からの依頼で土砂災害防止法の現状を把握するため『土砂災害防止法に関するアンケート』と題し、土砂災害防止法に基づく区域指定作業時の問題点や意見等について福島県砂防協会会員の皆様に依頼しました。

集計した結果、主な意見等については以下の通りとなりました。福島県砂防協会といたしましても今回の結果を踏まえ、今後の活動に生かしていきたいと考えております。

1. 区域指定作業に関する課題・懸念事項

1. 1 都道府県知事が、レッド、イエローゾーンの区域の指定に向けての作業を進めていますが、市町村の立場で、課題、障壁となっていることがありましたら、ご自由に記入してください。

主な意見

- ・ 住民の関心が低い。
- ・ 土砂災害防止法に関する理解を得るための取り組みが必要ではないか。
- ・ 観光客の減少や移転場所の確保等について心配である。

1. 2 このような障壁を乗り越えて、スムーズに区域指定を進めるための施策やご提言等をご自由に記入してください。

主な意見

- ・ 土砂災害防止法の内容についての広報活動を行なう。
- ・ 住民説明会で土砂災害の危険性等について、映像等を活用し説明する。
- ・ 土木関係機関と防災担当機関の連携を強化する。

2. 区域指定後の状況（レッド、イエローゾーンの指定を既に実施された市町村の方に対する質問です。）

既に区域指定された市町村で、指定による変化（住民や市町村職員の意識等）及び問題が生じたでしょうか？ご自由にご記入ください。

主な意見

- ・ 住民の危機感が高まってくると思うが、行政が責任を持って解決するとの誤解が広まると感じている。
- ・ レッドゾーンにおける建築物の構造規制に対し、住民からの理解が得づらかった。
- ・ 関係者及び関係各部署に危機感が生まれた。

3. 土砂災害防止法及びレッド、イエローゾーンの指定に関して、国土交通省、都道府県、砂防協会等への御要望がありましたらご自由に記入してください。

主な意見

- ・ 広報活動を積極的に行なって欲しい。
- ・ 住民及び観光客が安心感の持てる明確な説明のできる資料を作成して欲しい。
- ・ 市町村職員への実務的な研修を行なって欲しい。

「ふるさと安全たんけんスクール」の取り組み。

県内の小学校を対象に、「土砂災害の恐ろしさ」や「災害を防ぐための仕事」「ふだんから注意しなければならない自然現象」などについて学ぶため、ふるさと安全探検スクールを県内各地で開かれました。

○平成18年度実施状況

開催年月日	小学校
平成18年10月17日	天栄村立大里小学校
平成18年11月6日	白河市立大屋小学校
平成18年11月28日	田村市立堀越小学校
平成19年2月8日	いわき市立湯本第一小学校
平成19年2月22日	相馬市立飯豊小学校



天栄村立大里小学校

編 集 後 記

「砂防ふくしま（第16号）」をお届けします。

今年の冬は、昨年の豪雪が嘘のような暖冬の年となりました。しかし、平成18年度は浜通りや会津で豪雨等により地すべりや土石流で人家に大きな被災をもたらす災害が多く発生し、被災に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。

平成19年度砂防関係事業の予算も厳しいものになりましたが、今後とも、皆様とともに砂防関係事業の推進に努めて参りますのでよろしくお願い致します。

これからも充実した「砂防ふくしま」を目指しますので、皆様の御意見、御要望をお寄せください。

発行●福島県砂防協会
印刷●有限会社吾妻印刷

〒960-8670福島市杉妻町2-16(福島県土木部河川港湾領域砂防グループ) TEL024-521-7493 FAX024-521-7716